2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	PCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験とその関連資格	学校法人滋慶学園の職員。			

《授業科目における学習内容》

この授業では、学生がコンピュータ自体の操作の習熟をはかることはもちろん、ソフトウェア間の連携、コンピュータネットワーク環境の適切な利用ができることに重点を置いて実施する。これにより、在学中ならびに卒業後の情報処理スキルの向上を図る。

《成績評価の方法と基準》

出席(20%)、平常点(10%)、試験点(70%:内訳(定期試験40%、課題30%))

《使用教材(教科書)及び参考図書》

イーラーニングテキスト　コンピューターキャリアトレーニング
講義はスキルのレベル別に分類されています。レベル1=普通の社会人スキル、レベル2＝できる社会人スキル、レベル3＝卒業後の各業界で要求されるスキル。BSCと各学科でコラボして開発した講義はレベル3に含まれます。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる	CCT入門1	イーラーニングテキストで復習すること。
		各コマにおける授業予定	ログイン/受講時の注意点/CCT講座を受講する意義 インターネットの情報を理解し、かつ、安全にルールに従ったインターネット利用ができる知識や能力を身につける		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる	Wordレベル1	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ビジネス文書とは/ページ設定/インデント/箇条書きと段落番号/均等割り付け/表の作成		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	スライド作成の基本的な操作ができる	PPダイジェスト	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	プレゼンテーションの作成手順/テーマとバリエーション/スライド/プレースホルダー/画像の挿入/テキストボックス/図形作成/ワードアート/画面切り替え効果の設定/アニメーション効果/ノートの作成/スライドショー		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる	Excelレベル1	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	表の作成(復習)/オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excelレベル2A	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excelレベル2B	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	データベース機能を理解し活用できる	Excelレベル3A データーベース	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	データベースとは/データを並べ替える/ フィルター/ウィンドウ枠の固定/大きな表を効率よく印刷する/他ソフトへのグラフ貼り付け		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる （平均、分散、標準偏差）	Excel統計1	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1 （基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）	Excel統計2	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表（ヒストグラム）の作成/標準偏差のグラフ図示		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2 （散布図、相関係数を求める）	Excel統計3	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	統計的検定を実施できる1 （T検定）	Excel統計4	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	母集団・標本・抽出について/統計的検定の手法について/t検定（一対の標本の平均値の差の検定）/F検定（分散の検定）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	統計的検定を実施できる2 （F検定）	Excel統計5	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	t検定の種類、使い分けについて/t検定（独立2標本の母分散が等しい平均値の差の検定）/t検定（独立2標本の母分散が等しくない平均値の差の検定）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	分散分析の意味とその使い分けについて理解できる	Excel統計 分散分析 （医療、看護系）	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	1元配置の分散分析（対応のない因子の場合）/2元配置の分散分析（対応のある因子の場合）/独立性の検定（カイ2乗検定）/死亡率・生存率・罹患率の算出		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	重回帰分析の意味を理解できる	Excel統計 重回帰分析 （介護、福祉系）	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	重回帰分析/復習（相関・度数分布表（ヒストグラム）・t検定）		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期で習ったのことを実践できる	Excel/Excel統計試験対策	イーラーニングテキストでこれまでの講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	Excel/Excel統計復習問題の実施		

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	英語Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	小松　真奈美	実務経験とその関連資格	看護師として勤務した後、医療通訳(英語)、通訳案内士として活動。			

《授業科目における学習内容》

1年生で習った基礎的な看護英語をふまえ、医療現場で外国人患者さんとの英語での対応が出来るようにする。

《成績評価の方法と基準》

定期試験・小テスト・授業態度・終講試験 80%　ロールプレイ20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

Nursing English in Action　辞書

《授業外における学習方法》

教科書の予習・復習、なるべく日常的に英語に触れる機会を増やす

《履修に当たっての留意点》

辞書及び上記テキストを必ず持参してください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1年時で習った看護英語の振り返りが出来る	プリント・教科書	特になし
		各コマにおける授業予定	1年時の復習　　初診患者の受け入れ・医療通訳		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	病棟でのバイタルサインの測定時の会話ができる	教科書	予習・復習
		各コマにおける授業予定	Chapter　7　バイタルサインの測定①		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	救急外来でのバイタルサインの測定時の会話が話せる	教科書	小テスト・予習・復習
		各コマにおける授業予定	Chapter　7　バイタルサインの測定②		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査時(採血)の基本的な動作の言い回しが出来る	教科書	予習・復習
		各コマにおける授業予定	Chapter　8　検査と処置①		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査時(心電図)の基本的な動作の言い回しが出来る	教科書	小テスト
		各コマにおける授業予定	Chapter　8　検査と処置②		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	服用中の薬の聴取が出来る	教科書	予習・復習
		各コマにおける授業予定	Chapter　9　処方薬の管理①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	病棟での与薬の説明が出来る	教科書	小テスト
		各コマにおける授業予定	Chapter　9　処方薬の管理②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	アメリカ海外ドラマで、医療の英語が聞き取れる	プリント	特になし
		各コマにおける授業予定	海外ドラマで英語を学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	自己管理指導の場面を英語でやり取りできる。	教科書	予習・復習
		各コマにおける授業予定	Chapter　10　退院時の指導①		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活指導の話し合いの場面のテキスト内容を発音できる。	教科書	小テスト
		各コマにおける授業予定	Chapter　10　退院時の指導②		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキット作成で、今までの振り返りが出来る	辞書・教科書	予習・復習
		各コマにおける授業予定	ロールプレイ準備・スキット作成		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	スキット作成・リハーサルで、今までの振り返りが出来る	辞書・教科書	ロールプレイ暗記
		各コマにおける授業予定	ロールプレイ準備・リハーサル		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	ロールプレイ発表にて、英語で医療場面の会話ができる	辞書・教科書	ロールプレイ暗記
		各コマにおける授業予定	ロールプレイ　本番		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療現場で使われる略語に慣れることが出来る	教科書・プリント	予習・復習
		各コマにおける授業予定	英文カルテの読み方・略語・医療用語の成り立ち		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	今までの振り返りが出来る	教科書・プリント	予習・復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	病態治療学Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	木元貴祥/仲谷佳高 濱田智子	実務経験とその関連資格	木元:薬剤師として勤務した後、看護師国家試験対策講師として勤務。仲谷:精神科医師として勤務。濱田:歯科医師として勤務した後、大阪滋慶学園職員として勤務。			

《授業科目における学習内容》

看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。病態治療学Ⅳでは調節機能障害、運動機能障害、精神機能障害の病態と検査、治療について学習する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

病態生理学(医学書院)　脳・神経　(医学書院)　運動器(医学書院)
精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)

《授業外における学習方法》

常に予習復習を心がけてください。文字だけでなく映像でイメージして理解しようと努力してください。

《履修に当たっての留意点》

各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、 病体治療学の前に復習しておくこと

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	調節機能(神経系)障害の病態について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習
		各コマにおける授業予定	調節機能(神経系)障害①　症状とその病態		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	調節機能(神経系)障害の病態ついて理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能(神経系)障害②　症状とその病態		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	調節機能(神経系)障害の検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能(神経系)障害③　検査と治療		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能(神経系)障害④　脳血管障害		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳腫瘍、頭部外傷の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能(神経系)障害⑤　脳腫瘍、頭部外傷		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の変性疾患の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能（神経系）障害⑥　脳神経の変性疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄疾患の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能（神経系）障害⑦　脊髄疾患		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経、筋疾患の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	調節機能（神経系）障害⑧　神経、筋疾患		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害①　骨折		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨折　大腿骨頸部骨折の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害②　骨折　大腿骨頸部骨折　人口骨頭置換術		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	捻挫、脱臼、打撲の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害③　捻挫、脱臼、打撲		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎損傷の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害④　脊椎損傷		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害⑤　椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性関節リウマチの病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害⑥　慢性関節リウマチ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	変形性関節症の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害⑦　変形性関節症		

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	病態治療学Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	木元貴祥/仲谷佳高 濱田智子	実務経験とその関連資格	木元:薬剤師として勤務した後、看護師国家試験対策講師として勤務。仲谷:精神科医師として勤務。濱田:歯科医師として勤務した後、大阪滋慶学園職員として勤務。			

《授業科目における学習内容》

看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。病態治療学Ⅳでは調節機能障害、運動機能障害、精神機能障害の病態と検査、治療について学習する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

病態生理学(医学書院)　脳・神経　(医学書院)　運動器(医学書院)
精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)

《授業外における学習方法》

常に予習復習を心がけてください。文字だけでなく映像でイメージして理解しようと努力してください。

《履修に当たっての留意点》

各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、 病体治療学の前に復習しておくこと

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨腫瘍の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習
		各コマにおける授業予定	運動機能障害⑧　骨腫瘍		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害①　精神機能障害の病態のとらえ方		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害②　精神機能障害の検査と治療		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害③　リエゾン精神医学		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	統合失調症の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害④　統合失調症		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	躁うつ病の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害⑤　躁うつ病		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経症、心身症の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害⑥　神経症、心身症		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルコール依存症、薬物依存症　認知症の病態と検査・治療について理解する	教科書	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害⑦　アルコール依存症、薬物依存症　認知症		
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	臨床検査治療論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	藤原 牧子/土井　久也	実務経験とその関連資格	藤原:臨床検査技師として勤務した後、大学講師として勤務。土井:歯科医師として勤務。			

《授業科目における学習内容》

放射線について簡単に学習し、X線発生装置の基本構成、CR装置、X線TV装置、X線CT装置、核医学検査、放射線治療等について幅広く学習する。また、診療画像機器における、品質・安全管理について学ぶ。「麻酔科学」「周術期管理」「集中治療学」についての基礎知識習得、それらに関連する疾患や病態の理解、看護師の役割を理解する。各種検査項目の臨床的意義を理解するとともに検体採取、患者説明に関わる看護師としての役割について考える。

《成績評価の方法と基準》

小テスト・終講式試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

臨床放射線医学(医学書院)
臨床検査(医学書院)
臨床外科看護総論(医学書院)　検査値ガイドブック　第2版　(サイオ出版)

《授業外における学習方法》

授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

配布したプリントを授業で使用するので、忘れず持参すること。授業中、自由に質疑やコメントを歓迎し、積極的な意見交換を行いたい。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	放射能と放射線の違いについて理解し、説明できる。	教科書:臨床放射線医学	授業で配ったプリントをよく予習・復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	放射能と放射線(担当:藤原)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	CR装置、X線TV装置、X線CT装置について理解し、説明できる。	教科書:臨床放射線医学	授業で配ったプリントをよく予習・復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	放射線を使ったさまざまな検査(担当:藤原)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	核医学検査と放射線治療について理解し、説明できる。	教科書:臨床放射線医学	授業で配ったプリントをよく予習・復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	核医学検査、放射線治療(担当:藤原)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習:教科書の授業範囲を読んでくる。復習:配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	臨床検査の基礎(担当:藤原)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習:教科書の授業範囲を読んでくる。復習:配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	一般検査(担当:藤原)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習：教科書の授業範囲を読んでくる。復習：配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	血液学的検査(担当：藤原)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習：教科書の授業範囲を読んでくる。復習：配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	化学検査(担当：藤原)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習：教科書の授業範囲を読んでくる。復習：配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	免疫・血清検査(担当：藤原)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習：教科書の授業範囲を読んでくる。復習：配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	内分泌学的検査(担当：藤原)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習：教科書の授業範囲を読んでくる。復習：配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	微生物検査　病理検査(担当：藤原)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種機能障害に共通して行われる検査についての基礎を学び、臨床検査の意義と看護師の役割について理解する。	教科書、配布資料	予習：教科書の授業範囲を読んでくる。復習：配布プリントを参考に、主要個所について説明できるように練習する。
		各コマにおける授業予定	生体検査(担当：藤原)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎麻酔について解剖学的観点やその影響含め、理解できる	教科書、薬剤見本、パワポプロジェクター	教科書持参
		各コマにおける授業予定	脊椎麻酔の基礎、使用する薬剤、合併症・偶発症、術前・術中・術後の管理について(担当：土井)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸、輸液、体温管理の知識を習得し、重要性を理解できる	教科書、パワポプロジェクター	教科書持参
		各コマにおける授業予定	呼吸管理（モニター知識）、抜管について、輸液について、体温について（発熱、悪性高熱症等）(担当：土井)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	産科麻酔について母体の変化と関連付けて理解できる	教科書、パワポプロジェクター	教科書持参
		各コマにおける授業予定	産科麻酔について（基礎知識、無痛分娩の方法、最近の知見、母体の変化・合併症等）(担当：土井)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	第1～第3回講義の知識整理と、試験に向けての予習ができる	教科書、パワポプロジェクター、配布資料	教科書持参
		各コマにおける授業予定	試験問題・配布資料についての解説、実習、SLEについて(担当：土井)		

2021　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	地域福祉論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	向井　洋江 井上　奈美江/川本 みよこ	実務経験とその関連資格	向井:生活相談員　介護支援センター主査　福祉在宅事業部長　ソーシャルサポート会社代表 井上:病院勤務　訪問看護ステーション勤務　看護師免許　介護支援専門員免許 川本:整形外科、呼吸器、循環器病棟で看護師として勤務経験			

《授業科目における学習内容》

地域福祉の理念を学ぶとともに、多職種との連携の必要性とチーム医療、ヘルスケアチームについて学ぶ

《成績評価の方法と基準》

レポートや　最終試験にて評価

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会保障・社会福祉
看護と介護の連携ワークブック

《授業外における学習方法》

課外で多職種の理解を深めるための講義がある。また、合同授業(グループワーク)で考えたケアの内容を発表する機会がある。

《履修に当たっての留意点》

連携授業では、ワークブックをもちいて授業を展開する。グループワークでは、積極的に発言し協力して学びを深める

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	新しい社会福祉システムと地域福祉の基本的な考え方を説明できる	教科書	教科書を振り返る
		各コマにおける授業予定	新しい社会福祉システムと地域福祉の基本的な考え方		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域福祉の主体と福祉教育について自分の意見を言える	教科書	教科書を振り返る
		各コマにおける授業予定	地域福祉の主体と福祉教育		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	行政組織と民間組織の役割と実際について説明できる	教科書	社会福祉の行政についてまとめる
		各コマにおける授業予定	行政組織と民間組織の役割と実際		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	専門職の役割と実際について自分の考えを言える	教科書	教科書を振り返る
		各コマにおける授業予定	専門職の役割と実際		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	住民参加とその方法について説明できる	教科書	教科書を振り返る
		各コマにおける授業予定	住民参加とその方法		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ソーシャルサポートネットワークについて説明できる	教科書	教科書を振り返る
		各コマにおける授業予定	ソーシャルサポートネットワーク		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域における社会資源の活用・調整・開発について説明できる	教科書	教科書を振り返る
		各コマにおける授業予定	地域における社会資源の活用・調整・開発		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の社会福祉に影響を与えた海外の考え方について自分の意見が言える	教科書	学びを振り返る
		各コマにおける授業予定	日本の社会福祉に影響を与えた海外の考え方		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多職種ゲストからの連携の実際について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	看護と介護の連携の実際		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ヘルスケアチームの意義と必要性や介護職の役割について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	ヘルスケアチームの意義と必要性 介護の概念と介護職の役割		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護職と介護職の考え方、相違点について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護過程について 倫理要領からみる看護・介護の相違点 看護職と介護職の考え方の傾向について		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護・介護・社会福祉・保育の合同授業で協力できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	チームビルディング（レクリエーション）		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護・介護・社会福祉・保育の合同グループワークで看護学生として意見を述べ協力できる	連携ワークブック	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	合同授業で事例についてのケアを考える		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護・介護・社会福祉・保育の合同グループワークで看護学生として意見を述べ協力できる	連携ワークブック	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	合同授業で事例についてのケアを考える		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護・介護・社会福祉・保育の合同グループワークで看護学生として意見を述べ協力できる	発表準備	発表内容を考える
		各コマにおける授業予定	合同授業で事例についてのケアを考え、発表に向けてまとめる		

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	実習
科　目　名	老年看護学実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	専任教員/実習指導教員	実務経験とその関連資格	専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の専任教員プログラムを終了したもの。もしくは大学卒で、教育に関する科目4単位以上習得しているもの。実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員。			

《授業科目における学習内容》

老年Ⅰ－A:対象とのコミュニケーションや日常生活援助を通して、健康段階の違いによる高齢者の生活や心理的特徴について知る。
老年Ⅰ－B:①受け持ち患者の健康段階や日常生活自立度に応じて、安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる。
②受け持ち患者とのかかわりや日常生活援助を通して、身体面・心理面・社会面を把握し、看護問題を抽出する。

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、老年Ⅰ－A　24点満点、老年Ⅰ－B　76点満点とし、合計点数が60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学　(医学書院)　他

《授業外における学習方法》

実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。

《履修に当たっての留意点》

事前学習・追加学習は必ず行うこと。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1. 老人福祉センターの役割について述べることができる　2. 日常生活が自立した高齢者の生活状況や思いについて述べることができる	老人福祉センター利用者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	老人福祉センター利用者とのコミュニケーション、活動の見学		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	老人保健施設入所者の身体的・心理的・社会的特徴と必要な支援について述べることができる	老人保健施設入所者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	老人保健施設入所者とのコミュニケーション、日常生活援助見学・実施		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	老人保健施設の役割と看護師の役割について述べることができる	老人保健施設入所者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	老人保健施設入所者とのコミュニケーション、日常生活援助見学・実施		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①病院および病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察項目をあげることができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察ができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に必要な援助が根拠とともに述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護問題が根拠とともに述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年観とその理由とともに述べられる	老年看護学ﾃｷｽﾄ他	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション、援助のリフレクション ②老年観とその理由を文章で表現する		

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	カウンセリングの理論と技法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	太田　早苗	実務経験とその関連資格	公任心理士及び臨床心理士として公的機関にて勤務。			

《授業科目における学習内容》

カウンセリングの基本を学習し、学生間でロールプレイをしながらカウンセリングの技法を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

終講試験　100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

金子書房　カウンセリング演習

《授業外における学習方法》

授業中の演習を自宅で振り返り、気づきをまとめておく。

《履修に当たっての留意点》

学生間でのロールプレイなど積極的に参加してください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの基本と技法を理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセリングとは		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己理解を深め自己洞察できる	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	自己洞察		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセラーの基本的態度を理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセラーの基本的態度		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの理論理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセリングの理論について		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてかかわり技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	かかわり技法①		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてかかわり技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	かかわり技法②		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてかかわり技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	応答技法		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて質問技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	質問技法		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて対決技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	対決技法		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて行動支援法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	行動支援法		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて交流分析を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	交流分析①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて交流分析コミュニケーションスキル	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	交流分析②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてアサーショントレーニングを習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	アサーショントレーニング①		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてアサーショントレーニングを習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	アサーショントレーニング②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	本科目の重要事項が言える。	テキスト 配布プリント	科目の重要項目をまとめておく
		各コマにおける授業予定	総まとめ		

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	実習
科　目　名	成人看護学実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	専任教員/実習指導教員	実務経験とその関連資格	専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラムを終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している 教員実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員			

《授業科目における学習内容》

慢性疾患や健康障害を抱えて生活している成人期にある対象に対して、その人らしい社会生活を送れるためのセルフマネジメント能力に必要性の理解とその支援を行うための基礎的能力を習得する

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、各自必要と考える教科書

《授業外における学習方法》

各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習をに行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。

《履修に当たっての留意点》
①学習計画を立案し、事前学習をした上で実習に臨む②学生としての身だしなみ、態度で実習に臨み、体調管理に留意して遅刻欠席をしない③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る。④必要な報告・連絡・相談をする⑤積極的に知識・技術が取得できるように取り組む

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について表現することができる。	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	事前学習 実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	健康障害を持ちながら生活している対象の思いを知るための行動がとれる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	慢性疾患や健康障害を抱えることによる精神的な揺らぎや障害の受容過程について表現できる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)とその程度、関連する因子を理解し、表現することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる①	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる②	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる③	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	保健医療福祉システムの仕組みや関係職種との連携のあり方を考えることができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる④	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	行った援助や関わりが看護であったのかを検証し、発表できる	実習要項 各自必要と考える教科書・参考書　　実習ノート、担当患者、臨床指導者を含めた看護師との関	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	実習で受け持った事例を元に探求したいテーマを設定して、自分の看護の検証を行い、発表する		
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	実習
科　目　名	老年看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	専任教員/実習指導教員	実務経験とその関連資格	専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の専任教員プログラムを終了したもの。もしくは大学卒で、教育に関する科目4単位以上習得しているもの。実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員。			

《授業科目における学習内容》

健康障害をもつ老年期の患者を受け持ち、その患者の看護問題に対する看護計画の立案・実施・評価ができる

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学 (医学書院) 他

《授業外における学習方法》

実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。

《履修に当たっての留意点》

事前学習・追加学習は必ず行うこと。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1. 病棟の特徴・機能を述べることができる　2. 受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集する	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①病棟オリエンテーション　②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび他の情報源からの情報収集		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察項目をあげ、観察することができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の全体像が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の全体像を因子間の関連とともに表現		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護上の問題が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の看護問題		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護計画を具体的に表現できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の具体化		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	これまで（実習前半）の看護について評価し、今後の課題を述べることができる（中間評価）	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①実習前半の看護について評価する　②今後（後半）の実習に向けて課題をあげる		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者への看護について評価し、今後の課題を述べることができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者への看護について、患者の状態および自己の言動から評価する　②今後（後半）の実習に向けて課題をあげる		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年看護観について、その理由とともに述べられる	老年看護学ﾃｷｽﾄ他	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者に対する看護について参考文献や資料を用いて評価し、文章で表現する　②老年観とその理由を文章で表現する		

2021　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義
科 目 名	国際看護Ⅰ(Ⅱ)		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	15　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	海外
担 当 教 員	専任教員	実務経験とその関連資格	看護師として5年以上の経験かつ所定の専任教員プログラムを終了したもの。もしくは大学卒で、教育に関する科目4単位以上修得しているもの。			

《授業科目における学習内容》

海外研修視察により、海外の医療事情および看護のあり方の実際について学ぶ 。他国の医療事情について文化との関連から理解する。他国の看護に触れ、日本の看護について考えることができる。日本の看護についてプレゼンを行い情報交換を行うことができる。学生間交流を通し、看護に対する思いを共有する。

《成績評価の方法と基準》

課題・レポート内容で評価します。 60点以上で単位認定となります。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布プリント
各自参考文献やネット検索で収集する。

《授業外における学習方法》

まずは相手国の状況について十分に学習し、日本の現状について説明できるようにしておくこと。また海外研修では積極的にコミュニケーションをとり、自分を表現し、その地域の文化も含め看護の理解につとめるようにしてください。

《履修に当たっての留意点》
海外研修先の文化を尊重した態度で学習する。また、積極的に英語でコミュニケーションをとり多文化の中で多くの学びを得て下さい。
最も大事なことは、体調管理です。出発前からの健康管理を万全にしてください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて説明できる。	配布プリント 各自の学習ノート	アメリカの文化を調べる
		各コマにおける授業予定	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業内容をノートにまとめられる。	配布プリント 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	授業内容をノートにまとめられる。	配布プリント 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	授業内容をノートにまとめられる。	配布プリント 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	施設見学で関心を持った点について質問する事が出来る。	配布プリント 各自の学習ノート	アメリカの施設に関する事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における施設見学(病院、ナーシングホームなど)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発表研究を聴き、意見が言える。	配布プリント 各自の学習ノート	研究の発表原稿・PPの確認・修正
		各コマにおける授業予定	学生間交流、相互研究発表		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	積極的に交流する事が出来る。	配布プリント 各自の学習ノート	日常英会話を復習
		各コマにおける授業予定	学生間交流、文化交流		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	学びを他者にわかりやすいように発表し、他者の発表には意見を発言できる。	配布プリント 各自の学習ノート	まとめ
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表（学びの共有）		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2021　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科　目　区　分	その他	授業の方法	講義
科　目　名	国際看護Ⅱ		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	15　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年生教室
担 当 教 員	森田　佳奈子	実務経験とその関連資格	看護師として海外での医療支援活動経験、国際医療学会での論文発表			

《授業科目における学習内容》

他国の医療事情について文化との関連から理解する
他国の看護に触れ、日本の看護について考えることができる
日本の看護についてプレゼンを行い情報交換を行うことができる
学生間交流を通し、看護に対する思いを共有する。

《成績評価の方法と基準》

レポート・発表内容100%　60%以上で単位認定とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

国際看護学(メディカ出版)　その他、各自のテーマに応じた文献を選択する。

《授業外における学習方法》

テーマに応じた内容を積極的に自己学習しまとめる。

《履修に当たっての留意点》

個人ワークですので、問題意識を持って世界の国々を調べ、解決策を考えて下さい。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	関心のある国を選定できる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある国の現状を把握する。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある国の健康課題を明確にできる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある国の健康課題を明確にできる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	文献(AJN)抄読		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある国の健康課題解決に向けた取り組みを調べられる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある国の健康課題解決に向けた取り組みを調べられる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある国のオリジナルな健康課題解決策を考えられる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	他者にわかりやすく考えを発表できる。	各自参考文献を持参	発表資料を作成
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表（学びの共有）		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			